

# Spatial Pattern of Chinese Tourist Flows in Japan

著者	曾 斌丹
発行年	2019
その他のタイトル	日本における中国人観光客の空間的流動パターン
学位授与大学	筑波大学 (University of Tsukuba)
学位授与年度	2018
報告番号	12102甲第9033号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00156910">http://hdl.handle.net/2241/00156910</a>

氏名	曾 斌丹		
学位の種類	博 士 ( 理 学 )		
学位記番号	博 甲 第 9 0 3 3 号		
学位授与年月日	平成 3 1 年 3 月 2 5 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	生命環境科学研究科		
学位論文題目	Spatial Pattern of Chinese Tourist Flows in Japan (日本における中国人観光客の空間的流動パターン)		
主査	筑波大学教授	Ph. D.	呉羽 正昭
副査	筑波大学教授	理学博士	村山 祐司
副査	筑波大学准教授	博士 (理学)	堤 純
副査	筑波大学助教	博士 (理学)	山下 亜紀郎

## 論 文 の 要 旨

本研究で著者は、日本における中国人旅行者流動にみられる空間的パターンを解明することを目的としている。2003年のビジットジャパンキャンペーン政策開始以降、日本ではインバウンド・ツーリズムが著しく成長している。とくにアジア系の外国人旅行者の増加が目立っており、なかでも中国人旅行者の増加が著しい。この点に関しては、これまでの諸研究で、東京と大阪間を周遊するゴールドルートへの集中が指摘されてきた。しかし、従前の研究成果は販売されたパッケージツアーのみの分析に基づいていた。そのほとんどは団体形態での旅行であると推察され、これら研究の解明点は近年急激に成長している中国人による個人旅行の動向は反映していない。そこで、本研究は、パッケージツアーと個人旅行者という両者の旅程データに基づいて、社会ネットワーク分析を援用して流動の空間的パターンとその形成要因を明らかにしようとした。

旅行者の流動を把握するために、著者は日本政府観光局、観光庁、外務省が公開している統計資料のほか、次のデータを収集し分析した。一つは、中国の大手旅行会社が販売したパッケージツアーの旅程データに基づいて団体旅行者の流動を把握した。もう一つは、中国最大級の旅行口コミサイトで収集した旅程データから個人旅行者による流動を分析した。また、旅行口コミサイトからは日記データも収集し、そこから旅行者の空間流動に影響する要因を分析した。

その結果、第一にグループ旅行者の流動は東京・大阪地域に北海道と九州の副次地域が組み合わされたものとして示された。一方、個人旅行者では団体旅行者の流動に加えて北東北と中四国が存在する、より広域なパターンが指摘された。

第二に、訪問者流動の旅程パターンは、単一目的地型、往復型、ベースキャンプ型、地域ループ型、旅行チェーン型、および複合型に分けられた。このうち、複合型において訪問先の数が最も多く、滞在期間が最も長く、費用が最も高くなることが示された。また個人旅行者の旅程では、往復型、ベースキャンプ型、複合型が多くみられた。

第三に、目的地はその中心性の高さに応じて5段階のレベルに分類され、高い階層の目的地ほど他の目的地と結合するために高い中心性を有するが、包括的な機能を有することも示された。逆に、低次の

階層の目的地は、単一の機能のみを備えている。さらに個人旅行者による旅程ネットワーク内のほとんどの結節点は、団体旅行者の旅程ネットワークよりも高度の中心性をもつことが指摘された。

第四に、中国人旅行者流動を232の結節点と977のリンクからなるネットワークとして分析したところ、5つの副次的領域に分けられた。個人旅行者による旅程ネットワークは、団体旅行者のそれに比べて、大規模、長距離、低密度であるという特性が得られた。具体的には、前者は5つの副次的領域を含むのに対して、後者、すなわち団体旅行者の場合には東北地方および中国・四国地方の領域を含まない。個人旅行者旅程ネットワーク内の副次的領域間の結合は、団体旅行者のそれよりも強いことも示された。

第五に、旅行者流動の空間的パターンに影響する要因は、経済的な制約、訪問者の属性、目的地の特性、交通の特性、環境、そして不測の事態という6つにおおまかに分類できる。訪問者の属性には、過去の滞在経験や口コミなどが含まれ、これらが個人旅行者の流動に影響を与える中心的要因であることが指摘された。一方、団体旅行者の場合には、経済的な制約が重視されていることが明らかにされた。

## 審 査 の 要 旨

本研究は、近年継続的に増加している日本のインバウンド・ツーリズムについて、訪日中国人旅行者の空間流動を地理学の立場から分析したものである。インバウンド・ツーリズムについては多数の学問分野からの研究アプローチが存在するが、多くの研究は訪日外国人の空間流動を分析の対象としていない。しかし、訪日外国人旅行者が特定の目的地に集中する今日、地方への流動分散が重要な課題となっているにもかかわらず、その空間流動を深く分析した研究はほとんどない。それゆえ、膨大なデータを収集・構築し、社会ネットワーク分析に基づいて空間流動を定量的に把握したことは、本研究の独自性のひとつである。この点で、本研究は観光地理学の分野において国際的にも重要な研究として位置づけられる。

グローバル化によって国境を越える国際ツーリズムはますます成長している。その中で、本研究が示した社会ネットワーク分析に基づく外国人旅行者の空間流動の定量的把握は、今後さまざまな地域でインバウンド・ツーリズムを説明する際の重要なモデルとなり得る。この点で、本研究は地理学の発展に大きく貢献するものである。

また、中国人旅行者の訪日旅行に限ってみると、かつてはグループ旅行者が中心であったが、近年は個人旅行者の増加が顕著である。本研究は、グループ旅行者と個人旅行者にみられる空間流動の差にも注目し、その違いを定量的に示した。加えて、それぞれの行動パターンの空間的特徴をもたらす要因を解明した。こうした旅行者の属性の違いに着目して空間流動の特徴を検討した方法論もまた、本研究の独自性として評価される。さらに、グループ旅行者と個人旅行者の行動パターンの違いをもたらす要因について、それぞれで重視される要因が異なっていることを整理して説明した点からは、ツーリズムに関する旅行者流動研究において本研究は重要な研究として位置づけられると判断される。

平成31年1月31日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもとに論文の審査及び最終試験を行い、本論文について著者に説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員によって合格と判定された。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものとして認める。